

## 第2学年A組 学級活動指導案

第 5 校 時  
展開場所 教 室

### 1 議題 「みんなで楽しめる学級レクを考えよう」

学級活動（1）学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

### 2 議題について

（1）生徒の実態（男子12名 女子14名 計26名）

本学級年は昨年度、「学校生活をよりよくするために課題を見だし、解決しようとする話合い」をほとんど行っていない。そのため建設的に意見を出し合うことや合意形成に向けて折り合いをつける経験や学習が不足している。他者の考えを受け入れず、強い口調で自分の考えを押し通そうとする生徒と仲間との摩擦を避けようと当たり障りのないものになる生徒や発言そのものをしない生徒が複数存在しており、学級のリーダー達も「言いにくい」「聞いてもらえそうもない」ことを理由に注意することをためらうことがある。このような状態は、学級規範測定調査「シグナルⅡ」でも明らかであり、「自由に発言出来る雰囲気がある」の設問に対する肯定的回答率（9月3日実施）は41.7%と低かった。後期に選出されたリーダー達が把握しているクラスの課題は「いじり、からかいが酷くなっている」「先生に対する言葉遣いが直らない」「休み時間の奇声が無くならない」と深刻である。これらの課題を解決するためには、自由に発言出来る雰囲気をつくるのが、まず必要であると考えた。

（2）議題設定の理由

本学級において、自由に発言出来る雰囲気づくりを進めるには、話合い活動や実践、振り返りの中で、これまで摩擦を避けようとするあまり、自分の意見を主張してこなかった生徒達のアイデアが認められることが必要である。そのため議題は、生徒にとってアイデアが出しやすいものであり、「比べ合う」の段階でも意見が出しやすいものであることが求められる。本学年では、1月に自然教室を控えているおり、この時期に「学級レク」を経験させることは、キャンドルサービスを盛り上げ、学級の時間を有効に使うことにもつながると考え、「学級レク」を議題にすることとした。また、強い口調で自分の考えを押し通そうとする生徒の主張で終わらないように「みんなで楽しめる」を大前提にし、「全員参加」を条件にした。学級目標にある「互いに尊重する」の実践を求め、運動能力の高い生徒も、そうでない生徒も共に楽しめるもの考えるように求めた。

学級のリーダーにも、今回の目的を達成するための「学級レクの条件」を考えさせた。「レクを行っているときに誰かを責めないようにしたい」「チーム分けでもめないようにしたい」との考えから「ドッチボールと体育実技の副読本に載っているものにはしない」「勝敗を決めない」ことを条件に加えることの提案があり、それを加えることにした。このような経緯を経て、「みんなで楽しめる学級レクを考えよう」を議題として設定した。

### 3 研究主題との関わり

#### 研究主題

「自主的、実践的に活動し、生きる力を身につけた児童生徒の育成」

～ 主体的・対話的で深い学びを見据えて ～

#### 研究目標

学級活動等の集団活動に主体的・実践的に取り組む態度を育成するとともに、育てたい資質・能力を明確にし、新学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」につながる指導の在り方を探る。

#### 研究仮説

- (1) 学級活動等の集団活動において、集団の実態を踏まえ、一人一人の児童生徒の課題意識や役割分担を明確にし、活動の過程を具体的につかませ、活動に取り組ませれば児童生徒の集団への帰属意識や活動での達成感が高められ、自主的・実践的態度が育つであろう。
- (2) 学級活動等の集団活動において、議題の設定・確認、解決方法の話合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りまでの一連過程を「実践」と捉え、目指す資質・能力を明確にした上で意図的・計画的に指導に当たれば、深い学びにつながるだろう。

本授業では、仮説(2)について検証する。

### 4 研究の視点

#### (1) 主体的な課題の設定や学習過程の捉え方

本議題で目指す資質・能力は、「学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践できるようにする。(中学校学習指導要領解説特別活動編 P46)」である。自由に発言出来る雰囲気欠けることが課題であり、それを解決するために「学級レク」を議題として、多様な意見を生かして、合意形成を図り、実践できるようにしていく。

「自由に発言できる雰囲気欠ける」という課題は、学級規範測定調査「シグナルⅡ」でも明らかであり、多くの生徒が潜在的に感じていると思われる。しかし、「自由に発言できる雰囲気がないので、どうするか」という話し合いでは、犯人捜しや個人攻撃につながる可能性があるため、課題そのものを議題とせず、「みんなで楽しめる学年レク」について話し合い、合意形成を図る過程で、自由に発言できる雰囲気を徐々につくりたいと考えている。

そこで、提案理由は「自然教室に向けてクラス全員で楽しめるようにしたい」ことを柱とする。学級の課題を提案理由とすると、そのことに拘るがあまり、自由に発言できる雰囲気がなくなるだけでなく、話し合いへの積極参加をしなくなる生徒が生じる恐れもある。「自然教室に向けて」「みんなで楽しむ」「全員参加」を柱とした提案理由で、学級の課題を解決するための話し合い活動に導きたいと考えている。

「出し合う」の段階は、条件を満たすゲームを生徒が知らなかったり、忘れていたりすることがあるので、事前の帰りの会で提示し、宿題として考えさせるようにした。そうすることで、今まで主張していなかった生徒が考える時間を保障し、アドバイスをしながら意見を出せるようにしたい。

「比べ合う」の段階からが、本時の展開となるが、ここでは「賛成意見」のみ出すことにした。多くの考えから選んでいく形をとるため、賛成意見の多いものを中心に折り合いをつけていけば良いと考えた。また、「これはしたくない」という反対意見は、多くの生徒を萎縮させてしまうので、この話し合い活動の目的である「自由に発言できる雰囲気づくり」にはつながらないと考えた。

「まとめる」の段階では、それまでの賛成意見を可視化することで、多数決による決定をする場合であっても、その数に意味を持たせられるようにする。また、提案理由に迫る賛成意見などについては、他の考えを聴くなどして、話し合いが深めながら折り合いをつけられるようにする。

次に「実践」に向けて、各自の役割分担を決めていく。全員が一人一役を負い、「みんなが楽しめる」ことを「みんなでつくる」ことを意識させる。どんな役割があるかについては、意見が出ない場合が予想されるので、予め司会者や提案者との打ち合わせ、いくつかの役割を出せるようにした。役割を任せることで、学級内の自己有用感を向上させることも目指す。

「振り返り」では、学級レク自体が楽しかったかだけでなく、仲間を思いやることができたか、話し合いでは、自由に発言できたかなど、ポイントを絞って振り返らせる。その上で、今後の学校生活への汎化ができるようにする。

## (2) 多様な他者と協働する対話的な学びを充実させる手立て

### ○話し合いのための条件設定

本学級では、他者の考えを受け入れず、強い口調で自分の考えを押し通そうとする生徒達と仲間との摩擦を避けようと当たり障りのない発言をする生徒や発言そのものをしない生徒が複数存在する。そのため、分かりやすい議題であればあるほど、強い口調の生徒の主張はより強くなり、他方の生徒は発言そのものをしなくなる可能性がある。そこで、いくつかの条件を設定し、その条件を満たしているかというポイントにおいて対話的な話し合いをさせたいと考えている。

強い口調の生徒は、運動能力に長けていることが多く、球技など勝敗を決するものを好む傾向があるが、摩擦を避けようとしている生徒はそうでない場合が多い。勝敗を決するものにするか否かから話し合わせてしまうと、そこで「協働する対話的な学び」が成立しなくなる可能性がある。本議題では、「自由な発言のできる雰囲気づくり」という目的もある。条件設定により、摩擦を避けようとする生徒達が意見を出しやすい状況をつくり、対話的な学びを引き出したいと考えた。

### ○賛成意見だけの話し合い

本来、話し合い活動では、賛成意見と反対意見が出るのが当然である。しかし、本学級では、攻撃的な反対意見が出た場合、多くの生徒が萎縮してしまうことが予想される。そこで「比べ合う」の段階では、賛成意見のみ出せることにした。また、自分の意見が反映したことが分かるように「賛成」のマグネットを記録の生徒が貼るようにし、話し合いのなかでの自己有用感が得られる様に工夫する。

また、口調の強さではなく、提案理由に迫ることができているかを重視するように、予め司会に伝え、そのような意見が出たときには、他の関連した意見を求めるなど、話し合いが深まるようにする。こうした経験を積み重ねれば、口調の強さに頼ることなく、提案理由や多くの仲間のことを考えた意見が活発な話し合いとなり、多様な他者と協働する対話的な学びができるようになることを考えた。

## 5 評価規準【人間関係形成】

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
多様な人と共働して活動する意義やそのための方法を理解している。	お互いの意見や考えの違いを尊重し、互いのよさや可能性を生かす関係をつくっている。	社会的集団における人間関係を、自主的、実践的によりよいものに形成しようとしている。

## 6 事前の活動

	生徒の活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
11月9日 帰りの会	学級レクの提案（学級会長） ・期日：11月26日（月）6校時 ・場所：体育館 ・条件 ①全員参加 ②体育実技の副読本にあるものとドッジボールは不可 ③勝敗を決しないもの ・宿題として11月16日までに一人一つ以上考えてくる	・学級レクの目的を補足し、考えさせるようにする。 ・球技をやりたいという不満が出て提案を提案通りに行うことを伝える	・学級レクの目的や条件を理解している。（知識・技能） ・目的に沿った内容や方法を考えている。（思考力・判断力・表現力等）
11月16日 帰りの会	学級レクの内容・役割の提出 ・ワークシートに学級レクでやりたいゲームとその理由、当日必要な役割を記入させる。 ・ワークシート回収後は、司会グループが集計し、話し合いの準備を行う。	・ワークシートは朝の会で配布し、時間をかけて書けるようにする。 ・意見を出しにくい生徒には声をかける等、支援をする。	・目的に沿ったゲームを考えることができる。（知識・技能） ・筋道を立てて、理由について考えることができる。（思考力・判断力・表現力等）
11月19日 帰りの会	話し合いについての確認 ・学級レクについて、話し合いを行うことを確認する。 ・行う期日、場所、条件を確認する。（学級会長） ・今回の話し合いのルールについて伝える。（学級議長） ①意見は賛成意見のみ。 ②意見は、目的に迫れるかどうかの視点で出す。 ③仲間の考えや仲間そのものを批判することは絶対にし	・必要に応じて、担当が補足する。 ・ルールを作るにあたって、学級目標を意識したことなどを補足する。	・司会グループに協力し、活発かつ円滑に話し合おうとしている。（学びに向かう力・人間性） ・話し合いのルールを理解し、実践しようとしている。（知識・技能）

	ない。		
--	-----	--	--

## 7 本時の活動

### (1) 本時のねらい

○クラスの仲間全員で楽しめる学級レクを行う意義を理解して、話し合い活動を行っている。

(知識・技能)

○お互いの意見や考えの違いを尊重し、それを生かしながら、学級の生徒全員が楽しめる内容や  
行い方を考え、折り合いをつけていこうとしている。(思考力・判断力・表現力等)

### (2) 本時の展開

過程	生徒の活動	指導上の留意点と評価(◇)
活 動 の 開 始	1 はじめの言葉 2 司会グループの自己紹介 3 議題の確認 <u>話し合うこと① 学級レクの内容</u> ・全員が必ず参加できるもの ・体育実技の副読本、ドッジボール以外で勝敗を決しないもの ・1時間内に3つのレクを行う <u>話し合うこと② 準備と役割分担</u> ・全員が何らかの役割を担い、準備する。 ・一つの役割を2人以上で行っても良い。 4 提案理由の確認 ・1月に行われる自然教室に向けて、学級全員が楽しめるレクを行えるようにしたい。 5 話し合いのルールの確認 ・「比べ合う」では、賛成意見のみ出せることとし、反対意見は出さない。 ・仲間の考えや仲間そのものを批判することは絶対にしない。 6 教師の話 ・提案理由や話し合いのルールの確認など、必要に応じて補足する。	・議題と提案理由は予め記入した模造紙を黒板に貼り、いつでも確認できるようにする。 ◇議題や提案理由を理解し、話し合いに臨もうとしている。(知識・技能) ・「やっぱり球技がやりたい」など、議題の条件や提案理由に合わない発言があったときには、学級担任が制し、議案通りに話し合いを進めるように促す。 ◇話し合いのルールを理解し、話し合いに臨もうとしている。(知識・技能)
活 動 の 展 開	7 話し合い <u>話し合うこと① 学級レクの内容</u> ○出し合う ・司会①は事前に出されたゲームにその理由を添えて、紹介する。やり方が分かりにくいものは、出した人に説明してもらうよう促す。	○出された意見は肯定的に受け入れさせる。「つまらない」などの発言があった場合は、それ自体が反対意見になることを司会が言えるように予め指導する。

<p>活動の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会②は意見が書かれた短冊を黒板に貼る。</li> <li>・司会①は質問を受け付ける。質問のやりとりが意見に発展しないよう、ここでは、ゲームの方法の確認にとどめる。</li> </ul> <p>○比べ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会は出されたゲームから3つに絞ることを話し、意見を求める。</li> <li>・意見は賛成意見のみとし、賛成意見の出たゲームに賛成マークを司会②がつける。</li> <li>・意見が出ない場合、司会は主張の少ない生徒を指名し、発言を促す。</li> <li>・否定的な雰囲気になった場合、司会は学級の副会長を指名し、肯定的な雰囲気をつくれるようにする。</li> <li>・司会は二つのゲームを合わせて一つのものにする等の例を示し、深く考えられるように促す。</li> <li>・司会は、賛成意見が全くなかったものを選択肢から除くなどしながら、合意形成に近づけていく。</li> </ul> <p>○まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会は意見が出尽くしたことを確認し、それぞれの意見を尊重しながら話し合いをまとめ、決まったことを確認する。</li> </ul> <p><u>話し合うこと② 準備と役割分担</u></p> <p>○出し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会①は事前に出された意見にその理由を添えて、紹介する。</li> <li>・司会②は役割が書かれた短冊を黒板に貼る。</li> <li>・司会は、他に必要な役割がないか確認する。</li> </ul> <p>○まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出された仕事を全員で分担して行い、学級レクを全員で作り上げることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○賛成マークはそのゲームについて賛成意見を出した人数を表すものとする。(同じ生徒がそのゲームについて何回意見を言っても増やさない)</li> <li>○同じ生徒だけが発言しないように、司会が発言回数を記録できるように名簿を準備する。</li> <li>○二つのゲームを一緒にするなどの意見があった場合、短冊を操作し、思考の経過が分かるようにする。</li> <li>◇仲間の意見を尊重しながら、合意形成に向けた発言をすることができる。(思考力・判断力・表現力等)</li> <li>◇話し合いの進め方や折り合いの付け方を理解している。(知識・技能)</li> </ul> <p>○役割分担は司会グループで予め、検討し、全員に仕事を分担できるようにしておく。</p>
<p>活動のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合意形成の確認</li> <li>・司会は、話し合いで合意形成したことを確認する。</li> <li>○担任の話</li> <li>・話し合い活動の評価および実践することの大切さを伝え、授業のまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇合意形成した内容について、協力しようとしている。 (学びに向かう力・人間性)</li> </ul>

め		
---	--	--

## 8 事後の活動

	生徒の活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
11月21日 朝の会 帰りの会	各自の役割分担の決定 ・朝の会で学級レク役割分担の希望票を配布し記入する。 ・司会グループは集計と調整を行い、役割分担案をつくる。 ・帰りの会で発表し、全員の承認を得る。	・定員を超えた場合の決め方を司会グループと確認し、希望票を配布するときに生徒に伝える。	・積極的に学級レクの運営に関わろうとしているか。 (学びに向かう力・人間性)
11月26日 6時間目	学級レクの実施 ・話し合い活動で決まった事を役割分担に従って行う。	・失敗を許せる雰囲気づくりに努め、運営は生徒に任せる。	・自分の役割を理解しているか。(知識・技能) ・仲間の失敗を許したり、励ましたりしながら、ゲームを楽しんでいるか。 (学びに向かう力・人間性)
11月26日 帰りの会	アンケートの実施 ・話し合い活動で自分の主張ができたか、みんなで決めた学級レクを楽しむことができたか、課題があるとなれば何かについて書かせる。	・運営も含め、事後の振り返りをさせる。	・話し合い活動とその後の実践を通して振り返りができている。 (思考力・判断力・表現力等)
11月27日 帰りの会	振り返り ・アンケートをもとに「良かったこと」「課題となったこと」を伝え、自然教室や今後の学校生活に生かせるように考えさせる。	・否定的な発言が出ないように予め話しをする。	・学級レクを通して、クラスの間関係の変容などを感じ、今後の学校生活を考えようとしている。 (思考力・判断力・表現力等)